



Karl Walser

スイス絵画
の異才

カ ー ル ・ ヴ ァ ー ル ザ ー



カール・ヴァルサー《人形の乳母車と少女》(部分) 1905年以前 新ビール美術館

流麗な線、優美な謎めき—
すべてが日本初公開の回顧展。

開場時間：10時～17時(入場は16時30分まで)

休館日：月曜日、7月21日(火) *7月20日(月・祝)、8月10日(月)、8月24日(月)、8月31日(月)、9月7日(月)、9月14日(月)、9月21日(月・祝)は開館

料金：一般1,800円(団体1,600円)、高大生1,300円(団体1,100円)、小中生500円(団体300円)

※税込価格 ※チケットの詳細は大阪中之島美術館公式サイトをご確認ください。

主催：大阪中之島美術館 協賛：スイス インターナショナル エアラインズ、スイス ワールドカーゴ

後援：在日スイス大使館 企画協力：株式会社キュレイターズ

問い合わせ

TEL:06-4301-7285(大阪市総合コールセンター) 受付時間 8:00-21:00(年中無休)

美術館公式サイト

<https://naka-art.jp/exhibition-post/karlwalser-2026/>

大阪中之島
美術館
NAKANOSHIMA MUSEUM OF ART, OSAKA

大阪中之島美術館
4階展示室

2026.7.4 SAT ▶ 9.27 SUN

開催趣旨

カール・ヴァルザーは、20世紀前半に活躍したスイスの美術家です。20歳代からの約四半世紀をドイツの首都ベルリンで過ごし、象徴主義や印象主義など新しい芸術潮流に触れながら、優美な線や色彩に深い意味を潜ませた、独自の画風を築きました。画家として、当時最先端の美術団体であったベルリン分離派の中枢を担う一方で、新進気鋭の演出家マックス・ラインハルトと協働するなど、舞台美術家としても活躍。書籍の挿絵や室内装飾、壁画も手がけました。1908年（明治41）には日本へ旅行し、京都の宮津をはじめ各地に滞在。歌舞伎や祭など、明治期の日本の風俗や風景を生き生きと描いています。生前の人気にもかかわらず長らく歴史の闇に埋もれていたヴァルザーは、祖国スイスでも近年に再評価が始まったばかりです。本展は日本初の回顧展であり、出品作すべてが日本初公開です。スイス絵画の異才、ヴァルザーの創作の軌跡を、絵画や素描など約150点の作品でご覧ください。

カール・ヴァルザーとは？



カール・ヴァルザーのポートレート
1910年頃

カール・ヴァルザー（1877 - 1943）

スイスのベルン近郊の町ビール（ピエンヌ）に生まれる。1899年にベルリンに移住。1903年にベルリン分離派に加わり、審査員も務める。舞台美術家としても人気を集め、主にベルリンで舞台装置や衣装をデザインし、その仕事は生涯で28件に及んだ。挿絵画家・装幀家として出版界でも活躍し、室内装飾も手がけた。1908年に小説家ベルンハルト・ケラーマンとともに日本を旅行し、ケラーマンによる旅行記に挿絵を描いた。1925年に活動拠点をチューリヒに移してからは、主に壁画や室内装飾で評価を高めた。一歳下の弟ローベルト・ヴァルザー（1878 - 1956）は著名な文筆家。

本展のみどころ

1 **初期の絵画** 見ればみるほど意味深い？ 物語を呼び起こす、優美な謎めき

ベルリンで暮らし始めた頃の絵画は、何気ない日常的な画題が、流麗な線や穏やかな色彩で、優美に描かれています。しかし、ただ優美だけでなく、どこかしら謎めいており、物語を想起させるような、幻想への扉が潜んでいるようです。

2 **日本訪問** 関西との知られざる縁。色鮮やかによみがえる明治期の日本

1908年（明治41）に日本を旅したヴァルザーが、最も心ひかれた街は、日本三景の一つ「天橋立」で知られる京都の宮津でした。花街が栄え、歌舞伎も上演された、約120年前の宮津を、伸びやかな筆づかいと明るい色彩で描いています。

3 **多才の人** 兄弟の共作にも注目！ 舞台美術、本の挿絵などにみる豊かな才能

ヴァルザーは絵画制作の他に、舞台装置や衣装のデザイン、本の挿絵や表紙、室内装飾や壁画など、多方面で活躍しました。本展では、舞台美術のための下絵や、弟ローベルト・ヴァルザーの著書の挿絵原画も多数展示します。

展示構成

■ 第1章 絵画と素描

本展最初の章では、ヴァルザーの画家としての歩みをたどります。早熟の才がうかがえる故郷での修業時代の作品にはじまり、流麗な線と精妙な色づかいで描かれたベルリン移住当初の象徴主義的な油彩画や水彩画、そして大らかな筆致や色面が顕著となる1910 - 20年代の油彩画などを展示し、変化に富んだ画業の諸相をご覧ください。



(左上から時計回り)

《森》

1902-1903年 新ビール美術館

《隠者》

1907年 チューリヒ美術館 (H. E. マイエンフィッシュ博士コレクション、1946年収集)

《婦人の肖像》

1902年 ゴットフリート・ケラー財団 (新ビール美術館寄託)

《バルコニーに立つ女性》

1902年 ゴットフリート・ケラー財団 (新ビール美術館寄託)

すべてカール・ヴァルザー作

■ 第2章 日本滞在

1908年(明治41)に日本を旅したヴァルザーは、日本各地の風景や、そこに暮らす人々の生活、祭礼、娯楽などを、色鮮やかな水彩や素描で数多くスケッチし、油彩画の大作も描きました。東京と宮津では歌舞伎役者やその上演場面を、京都では祇園祭や納涼床を描いています。本章では画業のハイライトの一つでもある、日本を描いた一連の作品を展示します。(次々ページのコラムもご覧ください)



カール・ヴァルザー 《祇園祭、京都・八坂神社》
1908年 新ビール美術館



カール・ヴァルザー 《歌舞伎の一場面》(『壇浦兜軍記』より「阿古屋琴責」)
1908年 ゴットフリート・ケラー財団 (新ビール美術館寄託)

■ 第3章 挿絵と装幀

ヴァルザーは1902年より本の装幀に携わり、1904年に挿絵を描き始めました。本章では弟ローベルト・ヴァルザーをはじめ、トーマス・マンやヘルマン・ヘッセなど、数々の作家による著書のための仕事を紹介。挿絵の原画や版画、またヴァルザーが表紙をデザインした書籍を展示します。



カール・ヴァルザー
《ローベルト・ヴァルザー著『詩集』挿絵のための
エッチング「少年の愛」》1909年頃 スイス国立図書館



カール・ヴァルザー
《ゲオルク・ビューヒナー著
『レオンスとレーナ』
挿絵のためのリトグラフ
：第3幕、第3場、ペーター王、宴会の式場係、
ヴァレリオ、レオンス王子、女家庭教師》
1910年 スイス国立図書館

■ 第4章 舞台美術

ヴァルザーは舞台美術家としても人気を集め、マックス・ラインハルトをはじめとする演出家や劇場監督たちとの仕事は生涯で28件を数えます。本章では『ロミオとジュリエット』『フィガロの結婚』『カルメン』など様々な戯曲やオペラのための仕事を紹介。衣装デザインや舞台装置の下絵などを展示します。



カール・ヴァルザー
《ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト作曲
『フィガロの結婚』衣装デザイン：変装する小姓》
1911年 新ビール美術館



カール・ヴァルザー
《ゲルハルト・ハウプトマン作『グリゼルダ』舞台美術のための下絵
：第1幕、第2場、ガレリア》
1909年 ゴットフリート・ケラー財団（新ビール美術館寄託）

コラム：ご当地でも関心が高まる、ヴァルザーの宮津滞在

1908年（明治41）にヴァルザーはドイツ人小説家ベルンハルト・ケラーマンとともに日本へ旅行し、ケラーマンによる日本旅行記の挿絵のために、日本各地の風景や風俗をスケッチしました。横浜、東京、京都、伊勢など様々な地を訪れる中で二人がとくに心ひかれ、長きにわたって滞在したのは、天橋立観光の拠点でもある京都の宮津でした。

当時の宮津では、遊興施設が立ち並ぶ茶屋町が栄え、ヴァルザーとケラーマンは宿から船に乗って茶屋町に通い、芸妓や舞妓の踊りを楽しみました。ケラーマンが帰国後に著した2冊の著書『日本散策記』（1910年刊）『さっさよ やっさ 日本の踊り』（1911年刊）のうち、後者は宮津の芸妓や舞妓との交流を中心に書かれたものです。ヴァルザーはこの著書に27点の挿絵を寄せ、うち6点の原画（水彩画）が本展に出品されています。

ヴァルザーとケラーマンの滞在については、ご当地の宮津でも近年関心が高まっています。2016年（平成28）には地元の有志によって『さっさよ やっさ 日本の踊り』の現代語訳が刊行されました。ヴァルザーのスケッチやケラーマンの旅の記述を実在の場所や建物、催事に紐づける試みも、近隣の大学の研究者や地元の郷土史家によって進められており、本展はその成果にも多くを負っています。



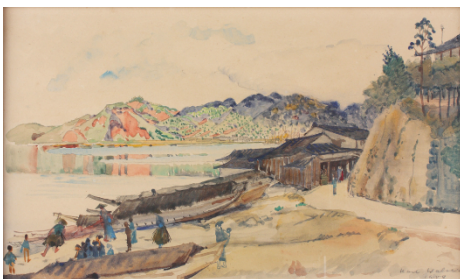
（左）《歌舞伎の女形【阿古屋】（《歌舞伎の一場面》のための習作）
1908年 ベルン美術館（友の会） © Kunstmuseum Bern
（右）《歌舞伎の一場面（『壇浦兜軍記』より「阿古屋琴責」）
1908年 ゴットフリート・ケラー財団（新ビール美術館寄託）
どちらもカール・ヴァルザー作

左図はヴァルザーが宮津で観覧したとされる歌舞伎「壇浦兜軍記」のヒロインで遊女の阿古屋を描いています。彼女が活躍する場面を描いた油彩画（右図）のための習作です。



（左）ベルンハルト・ケラーマン著／カール・ヴァルザー挿絵・表紙
『さっさよ やっさ 日本の踊り』 パウル・カッシーラー出版社、ベルリン、1911年刊
ローベルト・ヴァルザー財団、ベルン
（右）カール・ヴァルザー 《芸者（福子）》
1908年 ベルン美術館（友の会） © Kunstmuseum Bern

左図は書籍『さっさよ やっさ 日本の踊り』、右図は書籍の挿絵のための原画。



カール・ヴァルザー
《入り江、日本》
1908年
新ビール美術館

画面右上の高みにある建物は、ヴァルザーらが宿泊した「荒木旅館別荘」です。



カール・ヴァルザー
《花火》
1908年
個人蔵

宮津湾のお盆の催事「灯籠流し」を描いたものと推測されています。

【参考】

「三上家と茶屋町-カール・ヴァルザーとベルンハルト・ケラーマンの旅」(YouTube宮津市公式チャンネル)
https://www.youtube.com/watch?v=ZojYb-FN7_E

「ケラーマンが愛した宮津」ほか (YouTube京都府地域文化活性化連絡協議会公式チャンネル：プレイリスト「海の京都」)
https://youtube.com/playlist?list=PLmbRNw8z8skxHg90_bzJLo2W7tuFCzqa&si=djzceuz4Y2ySS1-



開催概要

展覧会名	スイス絵画の異才 カール・ヴァルザー
会期	2026年7月4日（土） - 9月27日（日）
休館日	月曜日、7/21（火） *7月20日（月・祝）、8月10日（月）、8月24日（月）、8月31日（月）、9月7日（月）、9月14日（月）、9月21日（月・祝）は開館
開場時間	10:00 - 17:00（入場は16:30まで）
観覧料	一般1800円（団体1600円） 高大生1300円（団体1100円） 小中生500円（団体300円） *税込価格。*2026年5月15日（金）10:00から販売開始予定 *本展は日時指定制ではございません。 *団体料金は20名以上。団体鑑賞をご希望の場合は事前に大阪中之島美術館公式サイトからお申込みください。 *学校団体の場合はご来場の4週間前までに大阪中之島美術館公式サイト「学校団体見学のご案内」からお申込みください。 *障がい者手帳（身体障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳）をお持ちの方（介護者1名を含む）は当日料金の半額（要証明）。ご来館当日、2階のチケットカウンターにてお買い求めください。（事前予約不要） *一般以外の料金でご利用になる方は証明できるものを当日ご提示ください。 *本展は、大阪市内在住の65歳以上の方も一般料金が必要です。 *災害などにより臨時で休館となる場合があります。

【チケット販売場所】大阪中之島美術館チケットサイト、ローソンチケット（Lコード：54075）、ローソン各店舗

会場	大阪中之島美術館 4階展示室
主催	大阪中之島美術館
協賛	スイス インターナショナル エアラインズ、スイス ワールドカーゴ
後援	在日スイス大使館
企画協力	株式会社キュレーターズ
展覧会公式サイト	https://nakka-art.jp/exhibition-post/karlwalser-2026/
お問い合わせ先	06-4301-7285 大阪市総合コールセンター（なにわコール）*受付時間8:00 - 21:00（年中無休）

報道関係者
お問い合わせ先

「スイス絵画の異才 カール・ヴァルザー」広報事務局（株式会社TMオフィス内）
担当：馬場、永井、西坂 TEL：090-6065-0063（馬場） 090-5667-3041（永井）
テレフォンセンター：050-1807-2919 FAX：06-6231-4440 E-MAIL：walser@tm-office.co.jp

[広報用画像一覧] スイス絵画の異才 カール・ヴァルザー

本展の展示物等の画像を、広報素材としてご提供いたします。下記申し込みフォームよりお申し込みください。

[広報用画像申込フォーム]

<https://forms.gle/SrrXsnjhjnWei5KL8>

*難しい場合は申込書に必要事項をご記入のうえ、広報事務局までご送付ください。

■ 広報画像をご使用の際は、別紙に記載の「画像使用全般に関する注意」を必ずご確認ください。

(1) 	(2) 	(3) 
(4) 	(5) 	(6) 
(7) 	(8) 	(9) 
(10) 	(11) 	(12) 
(13) 	(14) 	(15) 



[広報用画像クレジット一覧] スイス絵画の異才 カール・ヴァルザー

No.	キャプション
1	カール・ヴァルザー 《人形の乳母車と少女》 1905年以前 新ビール美術館
2	カール・ヴァルザー 《森》 1902-1303年 新ビール美術館
3	カール・ヴァルザー 《隠者》 1907年 チューリヒ美術館 (H. E. マイエンフィッシュ博士コレクション、1946年収集)
4	カール・ヴァルザー 《婦人の肖像》 1902年 ゴットフリート・ケラー財団 (新ビール美術館寄託)
5	カール・ヴァルザー 《バルコニーに立つ女性》 1902年 ゴットフリート・ケラー財団 (新ビール美術館寄託)
6	カール・ヴァルザー 《祇園祭、京都・八坂神社》 1908年 新ビール美術館
7	カール・ヴァルザー 《歌舞伎の一場面 (『壇浦兜軍記』より「阿古屋琴責」)》 1908年 ゴットフリート・ケラー財団 (新ビール美術館寄託)
8	カール・ヴァルザー 《ローベルト・ヴァルザー著『詩集』挿絵のためのエッチング「少年の愛」》 1909年頃 スイス国立図書館
9	カール・ヴァルザー 《ゲオルク・ビューヒナー著『レオンスとレーナ』挿絵のためのリトグラフ：第3幕、第3場、ペーター王、宴会の式場係、ヴァレーリオ、レオンス王子、女家庭教師》 1910年 スイス国立図書館
10	カール・ヴァルザー 《ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト作曲『フィガロの結婚』衣装デザイン：変装する小姓》 1911年 新ビール美術館
11	カール・ヴァルザー 《ジャック・オッフエンバック作曲『ホフマン物語』衣装デザイン：ジュリエッタの幕、仮面パーティー》 1911年 新ビール美術館
12	カール・ヴァルザー 《ゲルハルト・ハウプトマン作『グリゼルダ』舞台美術のための下絵：第1幕、第2場、ガレリア》 1909年 ゴットフリート・ケラー財団 (新ビール美術館寄託)
13	カール・ヴァルザー 《歌舞伎の女形 [阿古屋] (《歌舞伎の一場面》のための習作)》 1908年 ベルン美術館 (友の会) © Kunstmuseum Bern
14	カール・ヴァルザー 《入り江、日本》 1908年 新ビール美術館
15	カール・ヴァルザー 《花火》 1908年 個人蔵
16	本展メインビジュアル *キャプション不要



[広報用画像申込書] スイス絵画の異才 カール・ヴァルザー

[画像使用全般に関する注意]

- ・本展広報用画像の使用は、展覧会の紹介を目的とした報道に限らせて頂きます。ご使用可能期間は本展会期終了までです。
- ・ご使用の際は、展覧会名、会期、会場名、所定の作品データ、所定のクレジットを必ずご掲載ください。
- ・画像はすべて全図で使用してください。トリミング、文字や他のイメージを重ねることはできません。
- ・本展終了後の掲載、画像の二次使用はできません。本展会期中であっても再放送や転載をされる場合は広報事務局にご連絡ください。
- ・展覧会基本情報と広報画像の確認のため、校正を本展広報事務局にお送りくださるようお願いいたします。
- ・インターネットでご紹介いただく場合はコピーガードをかけてご使用のうえ掲載URLをお知らせください。
- ・掲載誌・紙（ご紹介号）、同録DVDほかを下記広報事務局まで1部お送りください。

[広報用画像申込フォーム]

<https://forms.gle/SrrXsnjhjnWei5KL8>

*難しい場合は申込書に必要事項をご記入のうえ、広報事務局までご送付ください。

ご希望の広報画像／ 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8 ・ 9 ・ 10 ・ 11 ・ 12 ・ 13 ・ 14 ・ 15 ・ 16	
貴社名／	
お名前／	
部署／	ご所属／
貴媒体名／	媒体種／
サイトURL／	
掲載号・露出予定日／	月号（ 月 日号）／ 月 日発売予定 <input type="checkbox"/> WEBへの転載あり
TEL／	FAX／
E-MAIL／	
<input type="checkbox"/> チケットプレゼントを希望する（最大2組4名様） *招待券のご提供は、広報用画像1点以上を掲載の上、本展をご紹介いただける場合に限らせていただきます。	
送付先／ 〒 -	
備考／	

報道関係者
お問い合わせ先

「スイス絵画の異才 カール・ヴァルザー」広報事務局（株式会社TMオフィス内）
担当：馬場、永井、西坂 TEL：090-6065-0063（馬場） 090-5667-3041（永井）
テレフォンセンター：050-1807-2919 FAX：06-6231-4440 E-MAIL：walsler@tm-office.co.jp